

「大人のいじめ対応姿勢5カ条」(阪根, 2007)

(1) いじめられっ子に () なし:

どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う

(2) () こそがいじめの元凶:

いじめる子よりも () への働きかけが大切

(3) 昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手:

深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要

(4) いじめの () から新たな () へ:

既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する

(5) いじめっ子だって () :

いじめる子の抱えるストレスにも目を向けて

* 同じ番号の複数の括弧には、同じ言葉が入ります。

* 違う言葉でも趣旨が同じであれば、それでよいと思います。

答えと解説

- (1) 非 これの対極が「被害者責任論」(やられる側にも問題がある)。
「いじめ」と「けんか」の区別は難しい。
予防:「いじめ」の定義を大人が教えるのではなく、子どもが話し合う。
人によって定義が違ふことに気付かせる。
対応:被害側と加害側を別の教員が聞き取る。
- (2) 周囲 いじめは、はやしたてる「観衆」や見て見ぬふりの「傍観者」も含む集団現象。
予防:しかし、「一人で止めさせない」。次のターゲットになるから。
「止める前に仲間をつくる」あるいは「誰かに伝える」。
対策:周囲がいじめを知っている。
ネットいじめはスクリーンショットなどで証拠保存。
- (3) いじめが中程度だと助けを求めても、さらに深刻になると助けを求めないという研究結果がある (Mizuno et al., 2018)。
- (4) 輪 「いつもつるんでいる」から「仲良し」なのではない。
たくさんの多様な出会いを。
- (5) 泣いている
虐待や体罰やいじめの連鎖や重複の問題がある。「多重被害者」の存在。
多様な「関係内攻撃」(逃げられない関係のなかでの攻撃)への対処。
「仕返し」ではなく「仲直り」を目指す。
〈いじめ予防実践のなかでの小学生の名言〉
「自分がいじめられて辛かったから、誰もいじめられないようにしたい」
「いじめられっ子のミカタになることは、
いじめっ子のテキになることじゃない」
「修復的対話」を。

文献

- 阪根健二. (2007). 大人のいじめ対応姿勢5カ条. 月刊生徒指導, 37(3), 16-18.
- Mizuno, H., Yanagida, T., & Toda, Y. (2018). How help-seeking expectations are associated with relational and physical victimization among Japanese adolescents. *Psychology*, 9, 1412-1425.
- デイビッド・フィンケルホー (著)・森田ゆり/金田ユリ子/定政由里子/森年恵 (訳) (2010). 子ども被害者学のすすめ. 岩波書店.